

平成 28 年度 技術情報第 4 号
イネ いもち病（葉いもち）

平成 28 年 7 月 27 日
静岡県病虫害防除所長

県内でイネいもち病（葉いもち）が平年よりも多く発生しています。
被害の拡大が予想されるため、多発ほ場では、防除の徹底をお願いします。

1 発生状況

7 月上中旬に行ったイネの巡回調査の結果、いもち病（葉いもち）の発病株率は 6.5%（平年 2.0%）、発生面積率は 30%（平年 23%）と平年よりも発生が多かった（表 1）。発生ほ場では、病原菌胞子の形成量が少ない停止型病斑（図 1 左：周辺部が褐色で、内部が灰色あるいは白色の病斑）が多かった。

1 ヶ月予報によると、8 月の気温は平年並～低く、降水量は平年並～多く、日照時間は平年よりも少ないため、葉いもちの発生に好適な気象条件になると予想される（感染好適条件：気温 15℃～25℃、葉面湿潤時間 10 時間以上、前 5 日間の平均気温が 20℃～25℃を全て満たす時）。

2 防除方法

- （1）置き苗には、いもち病が発生しやすく伝染原になりやすい。未だに放置してあるほ場も見られたため、不要なものについては早急に撤去する。
- （2）急性型病斑（図 1 右：病斑周辺部に褐色部分が少なく、内部が暗緑色あるいはねずみ色の病斑）が多い場合には速やかに薬剤散布をする。
- （3）上位葉に発生した葉いもちは、穂いもちの発生を助長する。そのため、葉いもちが多発しているほ場では、穂いもちの防除を適期（穂ばらみ期～穂ぞろい期）に行う。
- （4）本県では MBI-D 剤（「ウィン」、「デラウス」または「アチーブ」を含む剤）耐性いもち病菌が発生している。また、他県では QoI 剤（「アミスター」または「嵐」を含む剤）耐性いもち病菌が発生し問題となっており、本県でも発生が懸念される。耐性菌の発生リスクが高い薬剤を使用する場合は、連用を避けるなど適切に使用する。耐性菌に関する詳細は県病虫害防除基準の「殺菌剤耐性菌に関する各種資料について」の項を参照（URL：<http://www.s-boujo.jp/kihon/file/14sonota/1404.pdf>）。



図 1 被害の様子（左：停止型病斑、右：急性型病斑）

表1 イネいもち病の発生状況

調査地域	調査時期	発病株率 (%)	発生面積率 (%)
田方平坦地	7月7日	0.8 (0.2)	1.0 (6)
東部高冷地	7月8日	0.0 (0.7)	0 (2.1)
志太榛原	7月11日	5.2 (0.7)	4.0 (1.5)
中遠・西部(普通期)	7月6日・12日	8.8 (4.9)	4.0 (3.4)
中遠(早期)	7月6日・12日	17.6 (3.7)	6.0 (3.7)
県平均		6.5 (2.0)	3.0 (2.3)

() 内は過去10年間の平年値を示す

表2 イネのいもち病に対する主な防除薬剤¹⁾

系統名	FRAC ²⁾ コード	商品名	使用方法	希釈倍数 使用量	使用時期	本田の 使用回数
アミド系殺菌剤	P3	ルーチン粒剤	湛水 散布	1kg/10a	収穫30日前まで	2回 以内
ストロビルリン 系殺菌剤	11	オリブライト 1キロ粒剤	散布	1kg/10a	出穂10日前まで (但し、収穫45日前まで)	1回
メラニン生合成 阻害剤	16.1	ビームゾル	散布	1000倍	収穫7日前まで	3回 以内
		コラトッパ 1キロ粒剤 1 2	散布	1~1.5kg /10a	葉いもちに対しては 初発10日前~初発時、 穂いもちに対しては 出穂30日前~5日前まで	2回 以内
メラニン生合成 阻害剤・抗生物質 殺菌剤	16.1 ・24	ダブルカット フロアブル	散布	1000倍	穂揃期まで	2回 以内
メラニン生合成 阻害剤・その他	16.1 ・U14	ブラシン フロアブル	散布	1000倍	収穫7日前まで	2回 以内
		ブラシン 粉剤DL	散布	3~4kg /10a	収穫7日前まで	2回 以内
抗生物質 殺菌剤	24	カスミン液剤	散布	1000倍	穂揃期まで	2回 以内
その他	6	フジワン粒剤	湛水 散布	3~5kg /10a	葉いもちに対しては 初発7~10日前、 穂いもちに対しては 出穂10~30日前(但し、 収穫30日前まで)	2回 以内
		オリゼメート 粒剤	散布	3~4kg /10a	葉いもちには 初発の10日前~初発時、 穂いもちには 出穂3~4週間前(但し、 収穫14日前まで)	2回 以内

1) 静岡県農薬安全使用指針・農作物病害虫防除基準 (<http://www.s-boujo.jp/>) に掲載されている薬剤から抜粋(平成28年7月25日時点JPP-NET配信データによる)

2) 薬剤を作用機構ごとに分類した番号。薬剤耐性菌の発生を未然に防ぐためには、作用機構の異なる剤をローテーションで使用する必要がある。

【問合せ先】 静岡県病害虫防除所

〒438-0803 磐田市富丘678-1 TEL 0538-36-1543 FAX 0538-33-0780

URL <http://www.agri-exp.pref.shizuoka.jp/boujo/boujo.html>